

事業番号	159
------	-----

平成24年度事業評価シート（平成23年度事業の評価）

1. 事業の概要

事業名	水産業振興事業				担当課	農林水産課	
事業期間	開始年度	～	終了予定年度	担当係	農業水産振興係		
総合計画	めざすまちの姿	6 産業の発展や交流による活力あふれるまち					
	目標	④ 資源を生かした漁業（漁業）					
	成果指標	ブランド化された水産加工物の数（累計）	中間目標（H27）	1	最終目標（H32）	2	
		漁獲量	1,900t	維持	2,000t	維持	
		漁業就業者					
予算区分	一般会計	6 款 農林水産業費	3 項 水産業費	1 目 水産業振興費			
	細事業	167 水産業施設管理運営費	168 一般諸経費				
位置づけ	関連計画						
	根拠法令	湖西市漁港管理条例					
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市 ・ <input type="checkbox"/> 国 ・ <input type="checkbox"/> 県 ・ <input type="checkbox"/> その他						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施・運営 <input type="checkbox"/> 一部又は全部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他（						
対象（誰のため）	<input type="checkbox"/> 全市民 <input checked="" type="checkbox"/> 特定の市民 <input type="checkbox"/> 特定の団体 <input type="checkbox"/> その他 漁業者						
事業の目的（何のため）	○漁業関連機関との連携により水産物の生産振興と生産組織の育成を図る。 ○水産施設の整備及び維持管理を行い、漁業経営の健全化と育成を図る。						
内容（概要）	▶漁港施設維持管理 漁港のストックマネジメント（機能保全）計画を策定（H23・H24）し、既存の漁港施設を今後50年間使用できるよう、緊急性の高いものから順次改修工事を実施していく。 ▶栽培漁業事業 浜名湖の水産ブランド品となるべく、ノギリガザミ等の栽培漁業を行う浜名漁業協同組合へ補助金を交付する。						
これまでの改善・見直しの状況	【栽培漁業事業】 浜名湖内の資源保護と、漁民の需要に応じた対応が可能なように補助要綱の改正を行っている。						

2. コスト

（単位：千円）

		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成23年度事業費
事業費	予算	3,765	16,533	8,620	（内訳）
	決算	3,058	17,540		旅費、需用費、役務費、委託料等 13,802
財源内訳	国庫支出金				施設等の修繕料 96
	県支出金		9,398	4,987	報償費、負担金、補助金、交付金等 3,335
	地方債				工事請負費等 307
	その他	606	556	555	
	一般財源	2,452	7,586	3,078	
職員人件費	4,180	4,038	4,026	人工 0.6 人	

3. 事業の評価

事業の実施状況

内容		単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	達成率	
活動指標	▶漁港巡回清掃業務 月1回以上(年間12回以上)の漁港パトロール	回	目標	12	12	12	167%
		回	実績	16	20		
	▶漁港施設維持管理 月1回以上の県との連絡調整	回	目標	12	12	12	
		回	実績	6	20		
	▶栽培漁業事業 補助対象魚種放流尾数	尾	目標	300000	300,000	300,000	
		尾	実績	68000	120,000		

実績・改善	【主な事業】 漁港巡回清掃業務（業務委託） 漁港施設維持管理業務（ストマネ計画策定） 栽培漁業への補助
課題・問題点となった事項	①漁港巡回清掃業務 巡回時の点検について具体的事項が定められておらず、巡回者の所感に委ねられている部分がある。 ②漁港施設維持管理 専門的内容であり、測量・設計・工事が絡むため、技術系職員の配置が必要不可欠。 ③栽培漁業事業 予算額に対する執行額の割合が低い。
どう対処したか	①ストックマネジメント計画の中に含まれる日常管理計画に準じた形で委託の仕様書の見直しを行う予定。 ②適切な人員配置を要望する。 ③浜松市では、予算枠の中でトラフグ、アサリ、タイ、クルマエビ、ノコギリガザミ等複数の魚種の種苗放流などを実施しているため、当市でも種苗の生産状況に応じて、クルマエビやアサリなどのノコギリガザミ以外の浜名湖主要魚種での事業実施が可能なように要綱の改正等を行った。
改善点	効果額 H24-H23 (千円)

自己評価	事業目的の達成状況	▶漁港巡回清掃業務（業務委託）→漁港管理者では目の届かない（手の回りきらない）日常の巡回・清掃を主たる利用者である浜名漁協に委託することで、漁港が健全な状態に保たれている。施設の異常等についても速やかに連絡する体制ができており、漁港機能が維持されている。 ▶漁港施設維持管理業務（ストマネ計画策定）→ストックマネジメント計画を作成し、計画に沿った適切な時期に補修や整備等を行うことで、漁港機能を今後50年間維持することとなっている。漁港機能の維持は漁業経営の健全化という本事業の目的に繋がる。 ▶栽培漁業への補助→栽培漁業を行う浜名漁協に対し、事業費の補助を行うことで、浜名湖内の漁業資源の安定化を図っている。漁業資源が安定すれば、漁家経営は安定し、水産振興が図られるため、本事業の目的への貢献度は高い。			
	※必要性 事業を廃止・休止したときの影響	・施設の適切な管理ができなくなり、漁業活動に支障が生じる。 ・資源の減少により、漁業が衰退する。			
	判定	A 継続	現行の内容で実施	事業主体	市
	判定理由	▶水産施設の保全管理は、漁業経営の健全化と育成につながるため市が継続して事業を実施する必要がある。			
	今後の方向性	○現在鷲津・入出漁港は健全な保全管理が行われており、次年度以降も地道な事業展開を行い、行政では目が届かない地元密着型の運営を展開することに意義がある。その他、機能保全計画書を作成し、これまで以上に漁港施設の適切な管理に努める。 ○ノコギリガザミの漁獲量は増加しており、市内の漁業者の収入の安定・増加に寄与している。浜名湖は全国でも有数のアサリの漁場であり、また、ノコギリガザミは「ドウマン」として全国的にも有名であり、ウナギに続く浜名湖の特産として期待できる。このことを踏まえ、補助制度をより使い勝手の良いものにすることで、更なる浜名湖漁業の発展を図る。			